



婦防みやぎ

題字：宮城県知事 村井嘉浩 様

『第35回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会』開催

平成30年8月27日に、宮城県庁2階講堂において第35回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会が開催されました。

後藤会長の挨拶に続いて、研修会に先立ち表彰式が行われました。無火災地域推進功労表彰として、仙台市若林地区、仙台市泉地区の2つの婦人防火クラブのほか、幼年消防クラブ1団体、少年消防クラブ2団体、民間防火組織指導者1人の皆様方に宮城県知事から感謝状の贈呈が行われました。

また、永年にわたり地域の防火防災活動に御尽力されました8名の方々に婦人防火クラブ員永年功労表彰として宮城県知事から感謝状が贈呈されました。

その後、宮城県知事から御挨拶をいただき研修会へと入りました。仙台市泉地区からは、仙台市泉地区婦人防火クラブ連絡協議会の吉岡典子さんが、「泉地区婦人防火クラブ「50年のあゆみ」と題して、これまでの活動の歴史を制服のファッションショーを交えながら発表していただきました。

仙南地区からは角田市婦人防火クラブ連合会の渡辺キヨイさんが、「家庭防火の推進は私たちの手で」と題して、文化財防災デーに行った訓練の様子などを発表していただきました。

最後の発表となった登米地区からは、登米市婦人防火クラブの後藤久美子さんが、「登米市登米支部婦人防火クラブ活動記録」と題して、登米中学校での総合防災訓練の炊き出し訓練の指導の様子などを発表していただきました。

続く講演では、講師に特定非営利活動法人ハッピーート大崎の千島優子様を迎え「食べることは生きること ～災害のため、そして日常的にも考えてほしい～」と題してお話をいただきました。

千島様は御自身も過去に婦人防火クラブで活動されており、幅広い年齢の方を対象に「食育」をテーマに健康セミナーや料理教室など、健康増進と栄養状態の維持・改善に関する活動をされているほか、東日本大震災以後は、被災地の仮設住宅や集会所で栄養相談会などをされており、その経験を踏まえて、私たち婦人防火クラブへの期待や今後の活動で目指すことなどを考えさせられるとても有意義な講演でした。

研修会の最後に、参加者全員で力強く防火宣言を行いました。「自分達の地域から火災を出さない、自分達の地域は自分達で守る」というスローガンを全員で読み上げ、防火・防災を改めて誓い合い、研修会を終了しました。



～自分達の地域から火災を出さない 自分達の地域は自分達で守る～

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

事務局

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1

宮城県総務部消防課内（宮城県庁5階）

TEL 022(211)2374 FAX 022(211)2398

皆様と共に歩んで

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

会 長 後 藤 重 子



昨年は、非常に大きな災害が発生しました。6月の大阪府北部地震や、西日本を中心に大きな被害をもたらした平成30年7月豪雨、さらには9月の北海道胆振(いぶり) 東部地震などにより、多くの尊い命が奪われ、危険に晒されておりました。被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

東日本大震災から8年弱という月日が経ちました。各地域において行政面での復旧復興は進んでいると見受けられるとともに、心のケアを必要としている方々を励まし、元気づけようと、各地においてボランティアの方々による行

事が様々な形で行われているのではないのでしょうか。

災害で多くのものを失い、尊い経験をした私たちだからこそ、ひとりひとりの命を守るため、家族や地域と声を掛け合って行動し、地域住民の安心・安全を守る担い手として、地域の人とのつながりを大切に、「自分たちの地域から火災を出さない・自分たちの地域は自分で守る」を合言葉に、「未来に生かす新たな防災」を目指して、クラブ員が一丸となり「人と人が支え助け合う」という防災の基本を忘れずに活動が続けることが必要だと思っております。よろしく御協力の程お願い申し上げます。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会役員名簿 (平成31年1月1日現在)

役 職	氏 名	地 区 名
会 長	後 藤 重 子	塩 釜
副会長	八 木 彌 生	仙 台 宮 城
//	佐々木 文 子	大 崎
//	高 橋 則 子	名 取
理 事	穀 田 梅 子	仙 台 青 葉
//	菅 原 政 子	仙 台 宮 城 野
//	山 田 はるみ	仙 台 若 林
//	高 橋 理 恵	仙 台 太 白
//	今 野 なみい	仙 台 泉
//	郷 内 妙 子	岩 沼

役 職	氏 名	地 区 名
理 事	佐 藤 千 賀 子	登 米
//	菅 原 和 子	栗 原
//	松 崎 明 子	黒 川
//	佐々木 貞 子	石 巻
//	嶋 田 陳 子	亘 理
//	青 木 孝 子	仙 南
//	吉 田 ふみ子	気仙沼・本吉
監 事	古 内 昭 子	仙 台 泉
//	咲 間 政 子	岩 沼



広告

～県民の安全・安心な暮らしを支えて～

消防用設備等の適正な点検により安全・安心な毎日を支えます

宮城県と災害時における応援協力に関する協定の締結をしています。

- ・ 公共施設の消防用設備等の緊急点検
- ・ 要請により消防用設備等の応急復旧の為に技術者を派遣
- ・ 緊急避難施設への簡易トイレ、消火器などの提供
- ・ 協会会員の所有する給水車等、機材とオペレーターの提供



全国統一ラベル

消防用設備等の適正点検の証!!



消火器用



消火器以外の消防設備等用



一般社団法人宮城県消防設備協会

会長 櫻井 勝雄

〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 電話 022-223-3650

宮城県消防設備協会

検索



一人一人が輝く元気な宮城を目指して

宮城県知事 **村 井 嘉 浩**



婦防みやぎ第38号の発行、誠におめでとうございます。皆様には、日頃から家庭や地域の防火・防災活動の推進に御尽力をいただいております、心から感謝申し上げます。

昨年は、6月の大阪府北部地震や平成30年7月豪雨、さらには9月の北海道胆振(いぶり)東部地震など、全国的に自然災害が多発した1年でした。被災された皆様に対しまして、この場をお借りして、改めてお見舞いを申し上げます。

このような中、9月に実施した「9.1総合防災訓練」において、七ヶ浜町婦人防火クラブ連合会の皆さんによる炊き出し訓練の様子を拝見した際、自主防災組織として、また災害発生時の消防関係機関等の後方支援として、婦人防火クラブの重要性を再認識するとともに、熱心に取り組む姿から大きな活力をいただいたように思います。皆様には、家庭や地域の防火・防災の

担い手として、今後とも大いに御活躍いただきますようお願いいたします。

今年、「宮城県震災復興計画」の総仕上げとなる「発展期」の2年目になります。「力強くきめ細かな震災復興」、「地域経済の更なる成長」、「安心していきいきと暮らせる宮城の実現」、「美しく安全なまちづくり」を政策推進の基本として、復興の総仕上げに向けた施策に最優先で取り組むとともに、未来を担う子どもたちへの支援や人口減少対策など地方創生の取組も加速してまいります。

震災から間もなく8年が経過します。震災前の状態に戻す「復旧」にとどまらない「創造的な復興」を更に進め、一人一人が輝く、元気な宮城を県民の皆様とともに築き上げてまいりたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

忘れてない？

サイフにスマホに 火の確認 (2018年度全国統一防火標語)



広告

NITTAN

ニッタン株式会社

東北支社

〒980-0021 仙台市青葉区中央一丁目6番35号
東京建物仙台ビル4階

電話 (022) 266-6111

FAX (022) 266-6119

<http://www.nittan.com>





未来へつなぐ 私たちの思い

仙台市宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会

副会長 **野田幸代**

私たちが活動する仙台市宮城野区は、仙台市の北東部に位置し仙台駅東口から仙台港にかけて広がる地域で、区名の宮城野は古から和歌に詠まれ、みちのくを象徴する歌枕でもあります。区内は商業、流通エリア、沿岸部の工業エリア、そして都市型農業地帯もあり住環境の良さには定評がある地域です。

仙台市宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会は、そのような宮城野区内に6支部（宮城野、鶴谷、高砂、岩切、港、原町）で構成されており、主に、火災予防運動に併せた大規模店舗やJR駅周辺での防火キャンペーン、少年消防クラブや消防団と協力して行う県民の森への山火事防止標語板の取り付け、文化財防火デーに伴い行う消防訓練など各支部が年間を通じて様々な活動を行っております。

また、東日本大震災の被災地として当連絡協議会では、特色のある活動を行っておりますので、ここで紹介させていただきます。宮城野区は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、沿岸部を中心に甚大な被害が発生し、家族や住まいを失ったクラブ員も多数おりました。震災から1年が経ち、少しずつ気持ちの整理がつきはじめ、復興に向けた光が見え始めたころ、この震災の記憶を後世に残そうという取り組みが、もっとも被害の大きかった港支部のクラブ員を中心に始まりました。その取り組みは、自分たちが経験したことを活字として残すため体験文集を作ることでした。クラブ員は、仮設住宅を一軒一軒訪ね歩き、体験文の作成を依

頼しました。そして、平成24年11月に一冊の文集が出来上がりました。

私たちの仲間が取りまとめた、この一冊に込められたたくさんの「思い」を、多くの人達に伝えていく必要があるとの使命感にかられて、当連絡協議会の中に「婦防みやぎの朗読会」を立ち上げたのは、その後間もなくのことでした。平成24年度から宮城野区文化センターと協力して、毎年3月に「あの日、あの時、私の記憶」と題して朗読会を開催しており、今年度で7回目を迎えます。この朗読会には、子供たちにも参加してもらっており、次の世代へバトンをつなぐ取り組みも実践しております。この他にも行政機関や地域団体などの要請を受け、様々な機会を通じて、震災を風化させないため朗読を行っておりますが、東日本大震災の教訓を様々な形で次の世代に伝え、今まで以上に強い地域の絆を作るため、今後とも地域に根差し未来につながる活動を続けていきたいと思っております。



広告

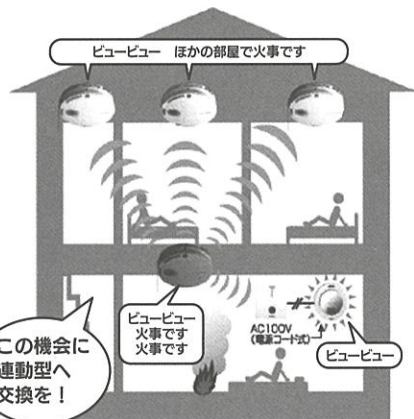
住宅用火災警報器は

設置後

約**10年**が
交換の
目安です

古くなると、電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しない恐れがあります。

この機会に
連動型へ
交換を！



ビュービュー ほかの部屋で火事です

ビュービュー 火事です

AC100V (電線コード付)

ビュービュー

1ヶ所で検知すると、家じゅうに
すばやくお知らせする【連動型】



火災の早期発見
におすすめ！

株式会社古川ポンプ製作所

本社 宮城県大崎市古川中里一丁目10-29 TEL0229-22-0396
支店 岩手県一関市山目字中野34-2 TEL0191-25-5221
営業所 宮城県仙台市青葉区柏木1-1-53 TEL022-275-3301



巨理町逢隈地区の活動について

巨理地区婦人防火クラブ連合会

監 事 齋 藤 美 紀

近年、全国各地において自然災害が数多く発生しております。

西日本豪雨等の甚大な被害が全国各地で相次ぐ中、犠牲となられました方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆様にあらためて御見舞い申し上げます。

さて、私たちの住む巨理郡は、県の南東部に位置しており、東に太平洋、北に阿武隈川が流れ、気候温暖な地域となっております。

このような環境の中に、巨理・山元の2町にて巨理地区婦人防火クラブ連合会が組織されております。

当連合会は昭和47年に結成され、現在は巨理町56クラブ・9,684名、山元町18クラブ・2,710名、合計74クラブ・12,394名の会員で構成されております。

連合会の活動内容として、今回は巨理町・逢隈（おおくま）地区婦人防火クラブ連絡協議会を御紹介いたします。

逢隈地区は、各支部全戸加入を原則とし、15クラブ・3,513名の会員で構成されており、主な活動としては水防訓練時の炊き出し、支部長研修、岩沼と名取の両市も含めて行われる「防火のつどい」参加、春季及び秋季の火災予防運動への行事参加等が挙げられます。

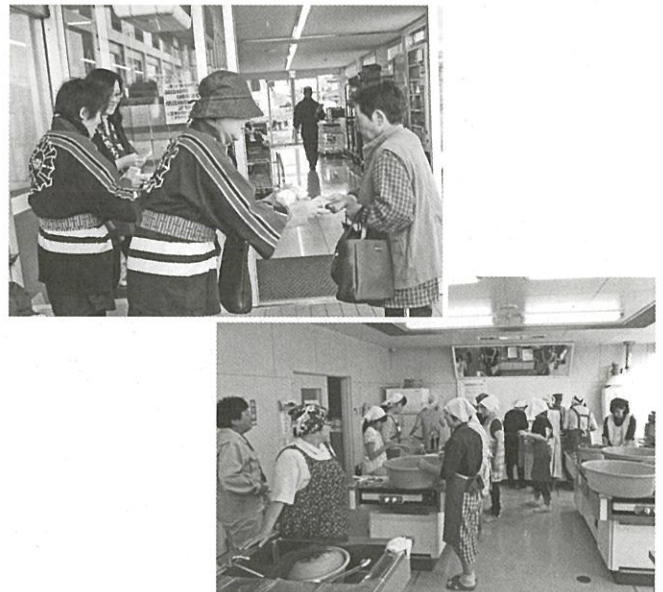
なかでも、秋季火災予防運動期間中は、住宅用火災警報器の啓蒙活動に重点を置いております。各支部において、全戸を訪問し火の用心の声がけを実施し、10年ほど前から設置が義務化された旨のお知らせをまいりました。

特に今年度は、設置に関するアンケート調査を実施しております。記入内容イコール個人情報ではないかと考

える方もおりますが、生命や財産に関わる大切なことである旨をお話し、御理解と御協力をお願いしております。その結果として、設置義務の意識付けを促すとともに、条例適合率の上昇をも目指しているところでございます。

また、防火・防災の意識向上のためにも、各家庭の玄関先等に掲揚をお願いしている防火啓発用の小旗を、火災予防運動期間中のみならず、毎月1日から7日まで掲揚するよう御協力を頂いております。

結びになりますが、防火宣言にも謳われておりますように、クラブ員が一体となり、各々がクラブ員としての自覚をあらためて強く持ち、防火防災を意識して活動するよう心掛けてまいりたいと存じます。



住宅用火災警報器、設置・点検していますか？

平成18年の消防法の改正により、全ての住宅に住宅用火災警報器（以下、住警器）の設置が義務付けられました。

全国では住宅火災により多くの方が犠牲となっており、そのうち約半数は逃げ遅れによるものです。また、年齢別では65歳以上の方が約7割を占めています。

万一の火災に早く気付き、知らせる住警器は、火災の早期発見の決め手となります。



「いざ」というときに住警器が適切に作動するよう、設置すべき場所や日頃の点検、お手入れ方法について確認しましょう。



安全安心なふるさと栗原づくり

栗原市婦人防火クラブ

会 長 菅 原 和 子

テレビのニュースを見ていると、世界だけではなく日本各地においても大地震が発生したり、台風や低気圧の影響による土砂崩れや洪水等の大災害が発生したことを聞かされると、栗原市は災害が少なく良い街だなと感じておりました。岩手・宮城内陸地震が発生するまでは…。

栗原市は、宮城県の北西部に位置し国定公園に指定されている栗駒山のふもと、自然豊かで風光明媚な農村田園地帯です。交通体系も国道4号と東北自動車道が南北に通じ、東西には国道398号が交差しており、さらに鉄道網についても東北新幹線やJR東北本線が市内を縦貫し仙台市や首都圏と直結しています。しかしながら、人口は9月30日現在68,550人と年々減少しており、さらに高齢化率も37.8%と宮城県内で第5位であり高齢化率が急速に進んでいます。

栗原市の婦人防火クラブは、昭和50年代に旧町村単位で結成され、それぞれ地域の長を生かした活動が行われていました。その後、平成17年の『平成の大合併』により、栗原郡9町1村が合併し栗原市婦人防火クラブが誕生しました。現在は10支部125班5,874人のクラブ員が活動しています。

主な活動内容としては、春と秋の火災予防運動時には消防団員とともに「火の用心」の広報ビラを毎戸に配布し、消火器や住宅用火災警報器の設置促進と維持管理について広報しております。また、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震を教訓に、栗原市が

毎年6月に実施している「栗原市総合防災訓練」において、自衛隊と協力し炊き出し訓練を行い、毎年約1,000個のおにぎりを参加者に提供しています。8月下旬に開催される「くりはら市民まつり」では、住宅用火災警報器普及促進ブースを設け、市民に対し住宅用火災警報器の設置と『住宅用火災警報器10年たったらとりカエル』を合言葉に維持管理についても広報を行っています。さらに、毎年11月には300人を超える市内防火クラブ員が集まり、「栗原市婦人防火クラブ研修会」を開催しています。今年は「栗原市の防災」と題し、栗原市総務部危機対策課から講師を招き、市が市内全世帯に配付している栗原市洪水・土砂災害ハザードマップの活用方法と災害発生前の早期避難の大切さを学びました。

これまで災害が少なく、良い街だと思っていた栗原市ですが、近年2度の大きな地震と大水害を経験したことにより、今は何処で何が起きても不思議ではないことを痛感いたしました。

大災害発生時には、防災の担い手である婦人防火クラブ員は、自ら被災しながらも活動しなければなりません。特に栗原市婦人防火クラブ員は多くの災害を経験していることから、今後その経験を生かした防災活動が期待されることです。長い時間をかけて培った信頼とコミュニケーションを図り「安全安心なふるさと栗原づくり」の担い手として、ともに手を携えながら活動してまいりたいと思います。



宮城県の住宅用火災警報器の設置率

設置率90.5% (全国2位) 条例適合率62.7% (全国33位)

平成30年6月1日時点の住宅用火災警報器の設置率は、全国で81.6%で、宮城県は福井県(95.1%)に続き全国第2位でした。当協議会の年間重点事業として、「住宅用火災警報器見回り作

戦」を、秋季・春季の全国火災予防運動の期間に各地域で行っておりますが、県内全戸設置を目指して更なる普及活動を行うとともに、定期的な維持管理や交換の呼びかけも行っていきましょう!

消火器の訪問点検・販売にご注意!

平成30年に不適正な消火器の訪問点検・販売の事案が県内各地で発生しています。消防署では消火器の訪問販売は行っていないので、「消防署から来ました」などと言われても信用してはいけません。また、もし購入してしまっても、一定期間内であれば

クーリングオフ制度を活用できる場合がありますので、すぐに消防署や警察に相談しましょう。

地域の皆さんに対し、定期的に家庭にある消火器の使用期限の確認を促すとともに、訪問点検・販売への注意喚起をお願いします!



広告

皆様には常日頃LPガスをご愛顧賜り、誠にありがとうございます。
当協会は、県内の全LPガス販売事業者と一緒に、皆様が快適な生活を過ごせますよう、今後も努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



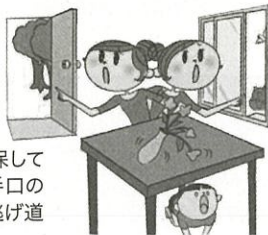
◆地震が起きた時の心構え◆

地震が発生したら、まず第一にご自身やご家族の安全を確保することが大切です。日頃から、ご家庭にて有事の際に取るべき行動をご家族と確認しておきましょう。

心構え その1

自分の身を守りましょう

まず、身の安全を確保して下さい。(玄関や勝手口の扉、窓などを開けて逃げ道を確認しましょう。)



心構え その3

巨大地震後にガスを使用する時には

- 自宅のLPガスボンベ等が倒れていないことを確認して下さい。
- 地震発生時(震度5程度以上)、ガスを使用していた場合はマイコンメーターが自動的にガスを遮断していることがあります。
- この場合、ご自身でマイコンメーターの復帰操作※を行えば、ガスがご使用になれます。日頃から、販売店に確認しておくで役立ちますね。



※右記「マイコンメーターの復帰方法」をご参照下さい。

心構え その2

火の始末をしましょう

器具栓、ガス栓及び容器バルブを閉めて下さい。



●LPガスを安全に使用するため、又、LPガスが使用出来なくなった時に備え、LPガス販売店の緊急連絡先「電話番号」を確認しておきましょう。

マイコンメーターの復帰方法

表示ランプ

復帰ボタン

検定有効期限ステッカー



すべてのガス栓・器具栓が「閉まっていること」を確認してください。マイコンメーターの【復帰ボタン】のキャップを外し、ボタンをしっかり押して【表示ランプ】が点灯したら手を離してください。1分後、ランプの点滅が消えていれば、ガスは安全にご使用出来ます。

※この方法でガスが使用出来ない場合は、販売店に連絡して下さい。

婦人防火クラブ会員の皆様も、ぜひ「宮城県防災指導員」に!!

宮城県では、地域における災害対策に関する活動の中心的な役割を担う「宮城県防災指導員」を養成しております。宮城県防災指導員には、養成講習を受講することで認定され、知事から認定証及び腕章が交付されます。

例年、町内会役員や自主防災組織役員、消防団員等に加えて多くの婦人防火クラブ会員の方にも養成講習を受講していただいております。

昨年度は60名を超える婦人防火クラブ会員の方に養成講習を受講していただきました。なかでも、大郷町で開催された防災指導員養成講習では、受講者全員が婦人防火クラブ会員でした。1日の講習を通して、地震や風水害等の基礎知識や対策について学んでいただいたり、地域の地図を囲んで危険箇所などを書き込む演習 (DIG (ディグ)) や避難所運営を図上で体験できる演習 (HUG (ハグ)) を実施していただきました。参加者の皆様からは、「大変勉強になりました」「具体的な内容でわかりやすかった」「普段聞けない講習を受けられた」など、好評をいただいたところです。

近年、東日本大震災などの経験を踏まえ、避難所運営や要配慮者への支援をはじめとする災害対応において、女性の視点は、これまで以上に重要であると言われております。

その一方で、宮城県防災指導員の女性の人数は年々増加しているものの、依然として、その比率は男性に比べて低く、今後より一層、女性防災指導員の養成やスキルアップ等を進め、地域の防災活動での活躍の推進を図ることが重要となります。地域防災力のさらなる向上のために、婦人防火クラブ会員の皆様には、是非、地域での防災活動の中心的役割を担う「宮城県防災指導員」になっていただければと期待しております。

防災指導員の詳細につきましては、宮城県総務部危機対策課ホームページを御覧下さい。

宮城県防災指導員ホームページ

(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kikitaisaku/ks-bousaisidouin28.html>)

